

N K H

長岡市立科学博物館報

No.51 1987



野鳥相を調べる会特集



早春の日だまりで憩うジョウビタキの雄



西山の野鳥相を調べる参加者



急傾斜地の多い東山の蓬平地域

<表 紙>

雪消えを待つて行われる4月の

野鳥相を調べる会（西山の親沢地域）

N K H

51号

野鳥相を調べる会特集号

1987年3月

長岡東山・西山の鳥類相

渡辺 央

はじめに

身近な自然を知る上からも、その地域の鳥類相が地元の人達によって調べられていることは、きわめて大切なことであろう。長岡の鳥類相はまだ十分に明らかにされていないため、その資料の収積が望まれている。

1979年には過去の探鳥会や長岡野鳥の会の人達によって記録された鳥類145種を整理し報告した^[1]。調査はその後も続けられ、当科学博物館と長岡野鳥の会は、1979年から毎年1地域を選定して、そこの鳥類相を明らかにして行く観察会（野鳥相を調べる会）を、一般市民の参加も得て行っている。その中で、1980～1984年にかけては長岡市域の東方に連なる東山地域で3カ所、西方の丘陵地である西山地域で2カ所の調査をそれぞれ行っている。今回の特集は、この東・西山地における5年間の調べる会の結果を整理したものである。

稿を進めるに当り、この会に参加され、調査に協力された長岡野鳥の会々員の皆さん、並びに一般市民の方々に厚くお礼申し上げます。

（表紙デザイン 本間 正三）

調査地域の概要

<東山>

長岡市域の東方に連なる標高400～700m級の低山であるが、沢がよく発達しているため、地形は比較的急峻である。野鳥相を調べる会は、主に山麓の低標高地で行ったが、そのような地域の植生は沢筋にミズナラ、オニグルミなどの高木を少しあるものの、主にスギ林とコナラ、タニウツギ、ヤマモミジなどから成る二次林である。東山では次の3地域を調べた(図1)。

栖吉: 栖吉集落の一部を含み、栖吉川に沿って約2.5kmを調べた。この間の標高は100～250mで、集落近くでは水田が入るが、山に入るにしたがって、かなり年数を経たスギ林と、コナラなどを主にした低木林、そして、沢沿いの斜面には比較的大きなオニグルミやホオノキなどが点在する。

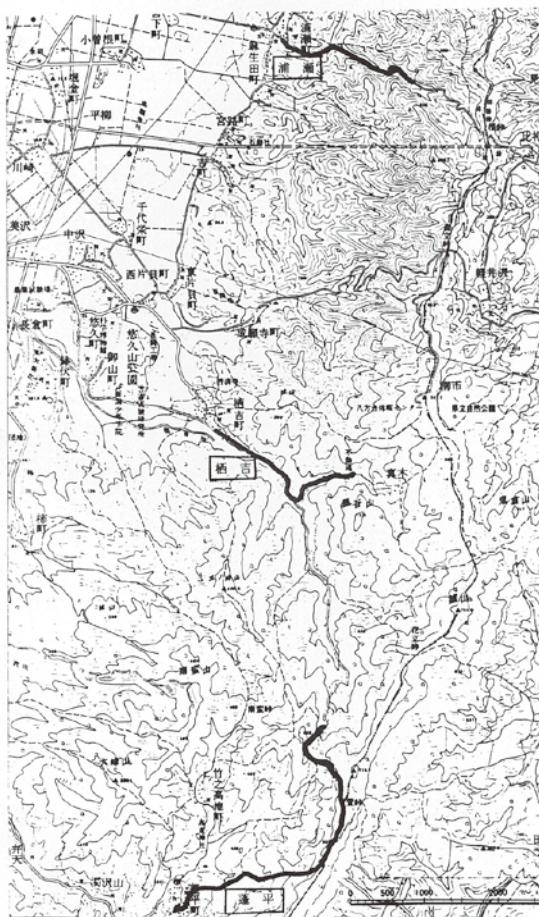


図1. 東山地域の調査地とコース

浦瀬: 浦瀬の集落を経て、沢沿いに造られた道路を登った。標高は50～260mの範囲にあり、途中にはスギ林が多いが、タニウツギなどの低木群落が成立する急傾斜地もある。その他、比較的緩やかな山腹にはコナラ、ヤマモミジなどの低木や、かなり生長したクリ、ホオノキなどを見る。

蓬平: 長岡東山の南端に位置し、ほとんどが傾斜地で、そこに水田が幾重にも見られる(裏表紙参照)。植生は山腹にスギ林や雑木林が入るもの全体に少なく、むしろ、タニウツギなどの低木が繁茂する急傾斜地が多い。しかし、コース途中には狭いながらも1か所だけブナ林が見られる。調査地の標高は200～540mの範囲である。

<西山>

西山は標高100～200mのなだらかな丘陵で、沢は発達していない。植生はスギ林を除くと、コナラ、ヤマツツジなどから或る落葉樹林に、アカマツが入った二次林である。山間には水田や放棄水田、湿地などが比較的よく見られる。西山では次の2地域を調べた(図2)。

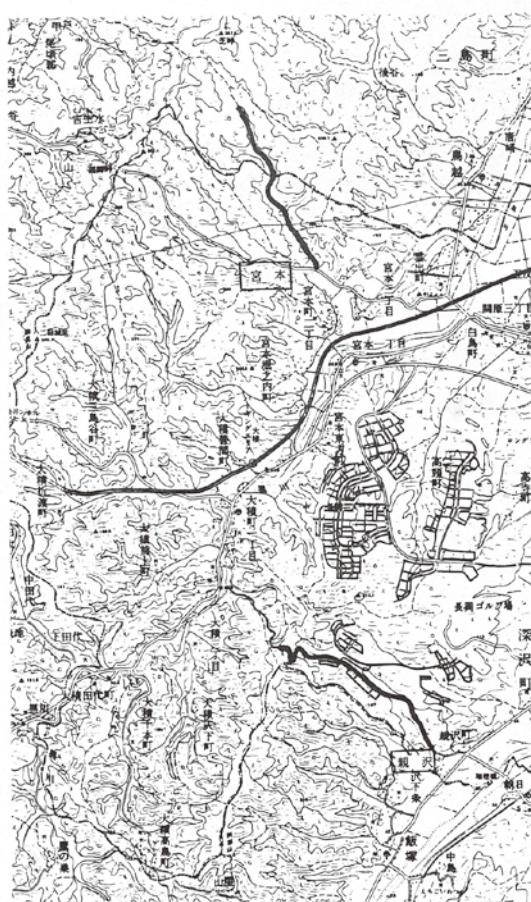


図2. 西山地域の調査地とコース

宮本：調査コースは標高40～100mで、山間には水田、小さな沢、それに伴う湿地、ヨシ原などが存在する。山腹は、アカマツとコナラを主にした雑木林の他、かなり年数を経たスギ林もに入る。

親沢：広い道路を使った調査コースは、標高60～200mで、若いスギ林も入るが、かなり生長したコナラ林や、クリ、ホオノキ、カスミザクラなどの高木も見られる。また、コースには、水田、堤、養鯉池、湿地とヨシ原、山を削った跡の荒地なども含まれる（表紙参照）。

調査方法

調査地と調査年は次の通りである。東山の栖吉1980年、浦瀬1981年、蓬平1984年、西山の宮本1982年、親沢1983年。

調査は4～11月まで毎月1回、主に第4週の日曜日に行い、参加者全員で調査コースをゆっくりと歩き、双眼鏡や望遠鏡で出現した鳥の種類を確かめ、観察し、リーダーは個体数や鳥の行動なども記録した。天候によって調べる会が行われなかったことが2回あった。1981年の8月（浦瀬）と、1984年の10月（蓬平）である。

観察された種類と種類数

東山と西山の両地域で観察された鳥類は12目28科71種になる（表1）。この種類数は、年間にわたって詳しく調べられた越路町西山の70種²⁾や、六日町西山の84種³⁾と比べてみても決して少なくない。東山と西山で比較すると、東山の57種に対して西山では65種である。つまり、東山に比べて調査地に水田、堤、湿地などの環境要素を多く含む西山地域で種類数が多かった。各調査地別にみると、西山の親沢58種・宮本49種、東山の浦瀬44種・蓬平38種・栖吉36種の順に多い。

東山・西山で観察された総種類数のうち45種（全体の63.4%）はスズメ目に属する種類で、中でも、クロツグミ、ヤブサメ、ウグイス、キビタキ、オオルリ、サンコウチョウなどを含むヒタキ類や、シジュウカラ、ヤマガラなどを含むシジュウカラ類、ホオジロ、ノジコなどを含むホオジロ類など、主に低山帯の樹林に生息する小鳥類が大半を占めている。しかし、調査地域の中に集落や水田、堤なども含まれているため、スズメ、ツバメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ヒバリなどのように集落付近

表1. 東山・西山の各調査地で観察された鳥類

目	科	種	渡り区分	東山地域			西山地域	
				栖吉	浦瀬	蓬平	宮本	親沢
カイツブリ	カイツブリ	1. カイツブリ	漂					○
コウノトリ	サギ	2. ゴイサギ	夏				○	○
		3. コサギ	留				○	
		4. アオサギ	夏	○	○	○	○	○
ガンカモ	ガンカモ	5. オシドリ	留					○
		6. カルガモ	"				○	○
		7. キンクロハジロ	冬					○
ワシタカ	ワシタカ	8. ハチクマ	夏	○	○	○	○	○
		9. トビ	留	○	○	○	○	○
		10. ハイタカラ	漂	○			○	○
		11. ノスリ	"	○		○	○	○
		12. サシバ	夏	○	○	○	○	○
		13. イヌワシ	留		○			
ツル	クイナ	14. ヒクイナ	夏		○			○
チドリ	チドリ	15. イカルチドリ	留					○
ハト	ハト	16. キジバト	"	○	○	○	○	○
		17. アオバト	旅			○		○
ホトトギス	ホトトギス	18. カッコウ	夏		○			
		19. ツツドリ	"					
		20. ホトトギス	"	○	○	○	○	○
アマツバメ	アマツバメ	21. アマツバメ	"		○		○	
ブッポウソウ	カワセミ	22. アカショウビン	"			○		
		23. カワセミ	"	○			○	○

留（留鳥）・夏（夏鳥）・冬（冬鳥）・漂（漂鳥）・旅（旅鳥）

に生息する種類や、カツブリ、カモ類などの水鳥、また、サギ類をはじめ、ヒクイナ、イカルチドリなどの涉鳥類も観察されている。ワシタカ類が6種観察されているのも注目される。特に、イヌワシが東山の浦瀬町で観察されたことは、1981年9月に同じ東山山麓で本種の若鳥1羽が弱って保護された事実もあることから、イヌワシが長岡の東山山系に生息する可能性もでてきた。

次に、観察された71種を季節的な渡りによって区分してみると、留鳥又は漂鳥と目されるもの32種(45.1%)夏鳥23種(32.4%)、冬鳥10種(14.1%)、旅鳥6種(8.5%)になる。この調べる会では冬期の調査を行っていないため、冬鳥が少なくなる可能性はあるが、冬期の積雪を考えると両山地とも冬鳥は決して多くはあるまい。したがって、東山・西山の鳥類は、そのほとんどが一年中長岡市域や、その付近で見られる留鳥か、又は短い距離を移動している漂鳥、それに、繁殖のために春に渡ってくる夏鳥が大部分を占めていることになる。

分 布

東山・西山の調査地合わせて5か所のうち、4か所以上で観察された種類は次の34種である：ハチクマ、トビ、ノスリ、サシバ、ホトトギス、アオゲラ、コゲラ、キセキレイ、セグロセキレイ、サンショウクイ、ヒヨドリ、モズ、クロツグミ、ヤブサメ、ウグイス、オオルリ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、ノジコ、カワラヒワ、スズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツグミ、カシラダカ、アオジ、マヒワ。以上のうち、後4種は渡りの時期に限って出現していることからここでは除くが、その他はすべて繁殖期を含む夏期に観察されている。これらはおそらく東山にも西山にも比較的広く分布している種類といえるだろう。

次に、東山だけで観察された種類は、ウソ、イヌワシ、カッコウ、アカショウビン、イワツバメ、ピンズイ、カワガラスの7種である。これらのうち、ウソ、ピンズイは渡りの時期に出現した種類であるし、カッコウとイワツバメは、もっと広く調査すれば当然西山にも分布していると考えられる。しかし、イヌワシは山の深さや森林の規模などから推して、西山よりも東山に分布している可能性が強い。また、カワガラスやアカショウビンも、その生息域にいずれも溪流が必要であることから、西山に比べて大きな沢が発達している東山の方に広く分布しているだろう。

一方、西山だけで観察された種類は、カツブリ、ゴイサギ、コサギ、オシドリ、カルガモ、キンクロハジロ、

イカルチドリ、ツツドリ、ヒバリ、ルリビタキ、ヒガラ、ベニマシコ、シメ、ニュウナイスズメの14種で、これの中には渡りの時期に水田、堤、湿地、ヨシ原、荒地などで観察された種類が多く含まれている。いずれも西山にこれらの環境要素を多く含んでいたために観察されたものと考えられるが、東山でもこれらの環境要素を含めて調査すれば観察されるであろう種類ばかりで、特に西山地域を特徴づける種類は含まれていない。

季節的変動

1. 種類数

各調査地における4~11月までの出現種類数の変動をみてみよう(図3)。まず、東山の栖吉では4月に極端に種類数が少なく(13種)、6月の22種がピークで、夏期に減少して、秋期の11月に増加する。ところが、浦瀬では4月がピークで、夏期に向って減少するが、他の調査地のように秋期になんでも増加することなく、そのまま減少し、11月が最も少なかった。蓬平では栖吉と似たパターンを示し、6月がピークで夏期に減少して、11月に多くなる。

一方、西山の両地域を見ると、親沢は他の地域に比べて各時期とも著しく種類数が多く、5月の35種をピークに、夏期減少し、10月にやや増加する。宮本でも親沢と似た変動を示すが、ここでは7月の25種がピークで、8~9月に減少し、やはり10~11月にかけて増加する。

以上のように、各調査地における種類数の季節的変動は少しづつ違っているものの、春の移動期(4月)から繁殖期(6月)にかけて多く、繁殖終期の7月から9月にかけて減少し、秋の移動期(10~11月)に少し増加するという傾向がみられる。低山地におけるこのような種類数の季節的変動は、越路町や六日町の結果とも大きく違わない。

そして、各調査地間の出現種類数のバラツキは春と秋の移動期に最も大きく、繁殖期を含む6~9月頃までの時期には小さい。つまり、各調査地の繁殖期(5~6月)に出現する種類数は、東山の栖吉22~23種・浦瀬22~24種・蓬平18~24種、西山の宮本23~26種・親沢30~35種である。親沢の種類数が多いが、その他はほぼ似た種類数である。調査年の違はあるものの、繁殖種類数は東山と西山ではそれ程の差はないといえるだろう。

2. 個体数密度

同じように観察された個体数を1km当たりの密度に換算して、その季節的変動を調べてみた(図4)。

東山3地域の密度は各時期とも西山地域より全体に低

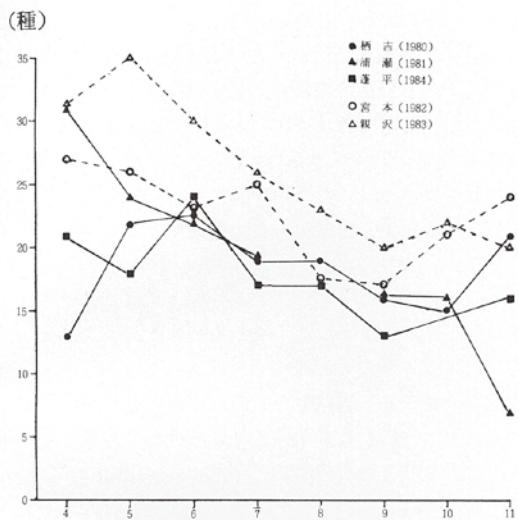


図3. 各調査地における種類数の季節的変動

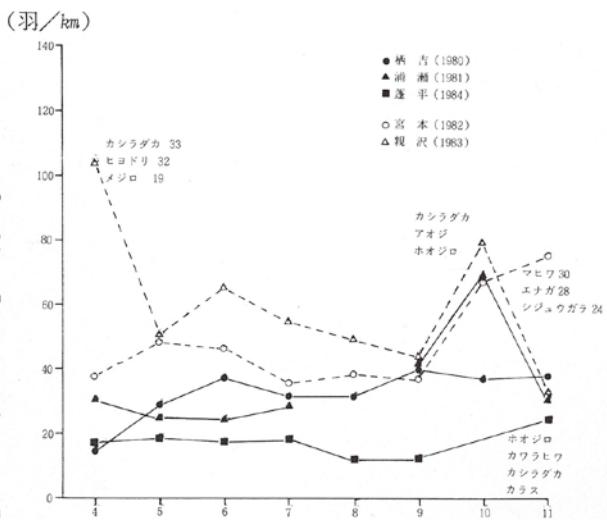


図4. 各調査地における個体数密度の季節的変動

い。栖吉では、はっきりとしたピークは認めがたいが、春期（6月）と秋期（9～11月）にやや密度が高い。浦瀬では5～6月に低く、秋期に向ってやや高くなり、10月に著しいピークがある。このピークは、山麓にある畑地にムクドリが群れで出現したことによっている。蓬平では各時期とも密度は低く、しかもピークらしいピークが季節的に見られないまま推移している。

一方、西山の両地域では、親沢の4月と宮本の11月に著しいピークがある。前者は春の移動期で、カシラダカ、ヒヨドリ、メジロなどが20～30羽ずつの群れで出現したことによる。後者は秋の移動期を過ぎ、冬鳥のマヒワが群れで出現したこと、また、エナガ、シジュウカラが混群で林に出現したことなどがそれぞれの密度を高めている。これらの点を踏まえて西山両地域の密度をみると、繁殖期の5月（宮本）、6月（親沢）に高く、夏期にやや減少し、10月にピークがきている。この秋のピークは、この両調査地に多い水田やヨシ原に、アオジ、カシラダカ、ホオジロが群れで出現したためである。そして、11月になると、宮本では前述の理由により10月よりも高いが、親沢では急速に低くなつた。

以上のように、各調査地の密度は春と秋の移動期には群れの出現などによって変化が大きく、調査地間の特徴はつかみ難いが、繁殖期を含む5～9月までの間では種類数と同様に比較的安定している。そこで、この期間の平均密度を東山と西山の各調査地間で比較してみると、かなりの差があることがわかる。例えば、東山の栖吉33.6羽・浦瀬28.8羽・蓬平15.1羽で、3地域の平均が25.8羽

である。これに対して、西山の宮本40.8羽・親沢51.8羽で、平均46.3羽になる。繁殖期を中心にみても西山の方が東山の各調査地に比べて著しく密度が高い。この違いは各調査地の環境を反映した結果と考えられるが、調査年が違うこと、また、西山地域の方が地形が緩やかで見通しが聞き、周囲の鳥が見つけ易いという点なども関係しているかも知れない。しかし、それらの点を考慮しても西山の親沢と東山の蓬平では36.7羽の差がある。親沢は種類数とともに、その生息個体数も多く、いわゆる鳥が多い地域のように思われた。

繁殖期の鳥類と優占種

繁殖期に種類数や個体数が各調査地とも安定するのは、そこの環境に対応して繁殖する種がほぼ決っているからであろう。そこで、各調査地の特徴をさらに知るために、東山・西山両地域の繁殖期（ここでは5月と6月とする）の鳥類をもう少し詳しく見てみよう。

東山と西山で繁殖期に観察された鳥類は、東山では36種、西山では45種で、両地域では51種になる。そのうち、私達が巣や雛などの存在によって繁殖を確認した種とその地域は次の21種（28地域）である：カツブリ（親沢）、サシバ（宮本）、イカルチドリ（親沢）、カワセミ（親沢）、コゲラ（蓬平）、イワツバメ（蓬平）、キセキレイ（栖吉、宮本、蓬平）、セグロセキレイ（親沢）、ヒヨドリ（栖吉、宮本、親沢）、モズ（親沢）、カワガラス（栖吉）、オオルリ（栖吉、浦瀬）、シジュウカラ（宮

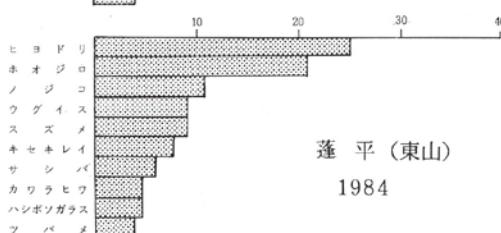
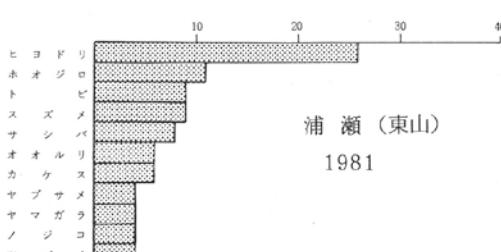
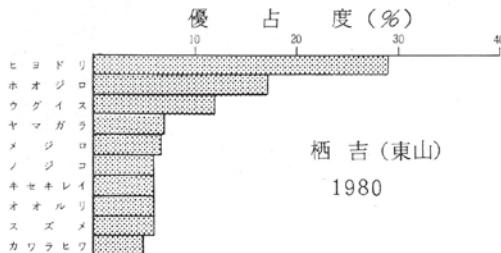
本), メジロ(栖吉), ホオジロ(蓬平, 親沢), ノジコ(宮本, 親沢), カワラヒワ(栖吉), イカル(浦瀬)スズメ(浦瀬, 蓬平), ハシボソガラス(蓬平), ハシブトガラス(親沢)。

次に繁殖期に観察された鳥類のうち, 優占度(全個体数の中に占めるその種の個体数の百分率)上位10種を上げ, 各調査地の優占種をみてみよう(図5)。

まず, 東山地域ではいずれの調査地でもヒヨドリが最優占種で, しかもその優占度はどこでも他の種よりかなり高い。

続いて3地域ともホオジロが優占するが, 本種は低山地では, 伐採跡地や低木林の林縁などを好み, あまり深い森林には入らない。したがって, 本種の生息数は森林の状態を知る一つの目安になると考えられるが, 森林が少ない蓬平では本種の優占度はかなり高い。この2種に続いて, 栖吉ではウグイス, ヤマガラ, メジロなどの低山を代表する種が続き, 浦瀬ではスズメ, トビ, サシバなどの集落地や山麓部に生息する種が続く。蓬平では, ノジコ, ウグイス, スズメなどの順になるが, ここではノジコのようにタニウツギなどの低木が点在する沢筋の傾斜地を好む種が優占するのが特徴である。

次に西山の2地域の優占種をみると, 東山地域と同様



にヒヨドリが最優占種で, 続いてホオジロの優占度も東山地域と同様に高い。しかし, 親沢では6月にハシボソガラスが多く出現したため, ホオジロの優占度を上回っている。これらの種に続いて, 宮本ではウグイス, ツバメ, ノジコが, 親沢ではツバメ, メジロ, ウグイスなどが優占し, 東山に比べてツバメが目立つが, その他は大きな違いはない。

以上のことから, 東山・西山両地域ともヒヨドリが最優占種で, 続いてホオジロが優占し, それに調査地に集落を含むことによって, スズメ, ツバメなどの優占度も高いが, これらを除くと, 両山地ともウグイス, ノジコ, メジロなどが優占する地域であるといえる。このような優占種の構成は, 越路町や六日町など, 主に県内中央部の低山における調査結果とほぼ同様で, 長岡の東山・西山に特徴的な鳥類相は特に見出せなかった。

文 献

- 渡辺 央 (1979)長岡の野鳥. 長岡市立科学博物館報, 35, 1~7.
- 金子与止男 (1981)新潟県の低山帯における鳥類群集の季節的変動. 鳥, 30 (4), 37~43.
- 渡辺央・中山正則・古川英夫 (1981) 六日町西山地域の鳥類相. 六日町西山の自然, PP 329 ~362.

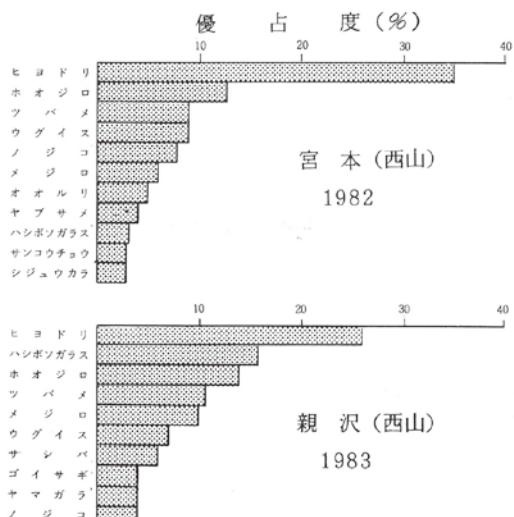
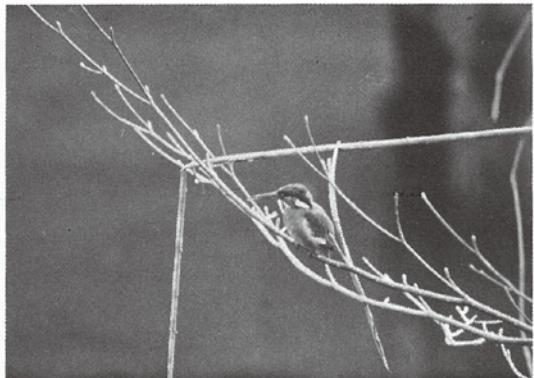


図5. 東山・西山の各調査地における繁殖期の優占種

長岡東山・西山の鳥たち



サクラの蜜を求めて飛来したメジロ



魚をねらうカワセミ



枯木の中の虫を探すアカゲラ



かわいい小鳥 エナガ



東山にも西山にも多いホオジロ



低山の鳴手ノジコ

☆ メジロ・アカゲラ・ノジコの写真は
長岡野鳥の会々員の高綱勉氏からお
借りしたものです。

昭和61年度事業報告

資料収集・調査

〔地学研究室〕

- 地質調査 南蒲原郡田上町：8月（2回）
中魚沼郡津南町：8月（2回）
- 研究協議 東京都：9月
- 〔植物研究室〕
- 植物分布調査 新潟市：4月
西蒲原郡岩室村：4月
北魚沼郡小出町：5月
三島郡越路町：5月
中魚沼郡津南町：7月，10月（2回）
糸魚川市：8月

- 研究協議 新潟市：2月（2回）

〔昆虫研究室〕

- 昆虫分布調査 北魚沼郡小出町：5月
板尾市：5月
南魚沼郡湯沢町：6月（2回），7月（2回），8月
糸魚川市：9月
中頸城郡妙高高原町：9月
両津市：9月，3月
西蒲原郡弥彦村：10月
豊栄市（3月）

〔動物研究室〕

- 鳥類分布調査 北魚沼郡小出町：5月
十日町市：6月
南蒲原郡下田村：6月
西蒲原郡分水町：9月，10月（2回）
南魚沼郡湯沢町：12月
石川県七尾市・輪島市：2月
三島郡出雲崎町：3月

〔歴史民俗研究室〕

- 民俗調査 南魚沼郡塙沢町：2月

〔考古研究室〕

- 遺跡分布調査 中魚沼郡津南町：5月，9月
西蒲原郡巻町：5月
- 研究協議 新潟市：7月

学会・研修会・協議会

- 新潟県民俗学会研究会 4月12日，新潟市（参加：鈴木館長）

- 新潟県博物館協議会総会 4月15日，新潟市（参加：鈴木館長）
- 日本地質学会大会 5月5日・6日，山形市（参加：加藤技師）
- 第28回北信越博物館協議会総会 5月15日・16日，金沢市（参加：鈴木館長）
- 新潟県民俗学会年会 5月18日，新潟市（参加：鈴木館長）
- 新潟県博物館協議会運営研究会 5月30・31日，佐渡郡小木町（参加：鈴木館長）
- 新潟県民俗学会昭和61年度共同探訪 9月6・7日，北魚沼郡堀之内町（参加：鈴木館長）
- 日本鳥学会大会 9月13・14日，船橋市（参加：渡辺主査）
- 新潟県博物館協議会学芸員等職員研修会 10月20・21日，中蒲原郡横越村（参加：鈴木館長，長谷川主査）
- 日本考古学協会総会 10月17日～19日，八戸市（参加：駒形主任）
- 日本鞘翅目学会大会 11月9日，東京都（参加：山屋技師）
- 第11回日本民具学会大会 11月22日～24日，大宮市（参加：鈴木館長）

普及活動

◦ 地層をしらべる会

6月1日 蓬平～猿倉岳，参加者6人。9月28日 乙吉町周辺，参加者8人。10月26日 柿町周辺，参加者2人。

◦ 気象をしらべる会

7月20日 科学博物館学習室 参加者7人。

◦ 春の植物を観察する会

5月18日 釜沢町，講師：植物研究家 坪谷富男先生，参加者32人。

◦ 初夏の植物を観察する会

6月29日 東山ファミリーランド，参加者28人。

◦ 親子の夏の植物観察会

7月27日 柿町白山神社周辺，参加者23人。

◦ キノコをしらべる会

9月23日 東山ファミリーランド，講師：県立新潟中央高校教諭 酒井修一先生，参加者79人。

◦ 雪国植物の越冬を観察する会

11月16日 風谷山周辺，講師：新潟大学助教授 石沢進先生，参加者13人

3月29日 風谷山周辺，講師：植物研究家 坪谷富男先生，参加者15人。

◦ 昆虫相をしらべる会

成願寺町周辺に分布する昆虫類の生息状態を調査する。

講師：昆虫研究家 樋熊清治先生（5月、6月、7月、9月），新潟県農業試験場 中野潔先生（8月）。

5月18日 参加者28人。6月15日 参加者20人。7月20日 参加者23人。8月10日 参加者27人。9月21日 参加者19人。

◦ 野鳥相をしらべる会

信濃川左岸流域（長岡大橋～藏王橋）周辺の野鳥類の生息状態を調査する。

講師：長岡市立表町小学校教頭 井口 忠先生（7月）
4月27日 参加者35人。5月25日 参加者23人。6月22日 参加者45人。7月27日 参加者32人。8月24日 参加者26人。9月21日 参加者24人。10月19日 参加者11人。11月23日 参加者28人。

◦ 野鳥集会と探鳥会

5月31日・6月1日 大積灰下鉱泉周辺，参加者35人。

◦ 大河津分水探鳥会

10月26日 大河津分水周辺，講師：長岡野鳥の会 高綱 勉先生，参加者16人。

◦ 悠久山探鳥会

11月16日 悠久山～百間堤，講師：長岡野鳥の会 古川英夫先生，参加者14人。

◦ 冬鳥さよなら探鳥会

3月15日 信濃川右岸（長生橋上流），講師：長岡市立表町小学校教頭 井口 忠先生，参加者34人。

◦ 一日考古学教室

横山遺跡の発掘現場でその規模や出土品等の説明を通して，考古学についての理解を深めてもらう。

8月24日 参加者118人。8月29日 参加者79人。

◦ 第35回生物標本展示会・第28回自然科学写真展示会

10月7日～12日 会場 中央公民館大ホール，出品者数455人，出品点数12,441点。

◦ 第23回県内小・中・高校生生物研究発表会

10月10日 会場 中央公民館401教室 発表 小学生の部 12題，中学生の部 2題，高校生の部 3題。

◦ 科学博物館講演会

11月15日 会場 中央公民館401教室 演題：ツバメの生態 講師 塩沢町立塩沢中学校教諭 木下 弘先生。動物研究室の報告 悠久山のサギのコロニーについて 当館主査 渡辺 央

出版物

◦ 館報（N H K）

◦ 第50号 生物研究発表会特集 700部

◦ 第51号 野鳥相をしらべる会特集 700部

◦ 博物館研究報告 第22号

◦ 新潟県およびその周辺地域におけるユキツバキの分布圏をとりまく植物群

— 3.オニシモツケ分布型 — 石沢 進

◦ 長岡市横山にみられる砂脈について（予報） 加藤正明

◦ 信濃川の河辺植物（第8報） 西山邦夫・荒井キミ

◦ 糸魚川市のオサムシ 山屋・須藤・中林

◦ ピットホール・トラップによる調査結果からみた伊豆諸島の鞘翅目群集 山屋茂人・国見裕之

◦ 長岡市悠久山公園のサギ類集団営巣地における

営巣数の推移および枯木化に伴う営巣形態の変化 渡辺 央

◦ 新潟県における縄文早期・前期の基礎的研究4) 駒形敏朗・石原正敏・小熊博史

◦ 蒲沢山満願寺について 鈴木昭英

主な資料寄贈（敬称略）

◦ 昆虫資料

◦ ミンミンゼミの異常型 20点 鎌倉市 西村文彦
アオマダラタマムシ（新潟県未記録）1点

◦ 小千谷市立東小千谷小学校 岩淵友裕

◦ マダラヤンマ（長岡市上田町産）1点

◦ 長岡市立表町小学校 若月賢司・吉川広朗

◦ 民俗資料

◦ 時代髪形衣装風俗人形 30点 長岡市楨下町 三間イネ

◦ 桶屋職人の道具 277点 長岡市東新町1 土田成市

◦ 大積民俗資料 64点 長岡市中島4 高木博朗

職員の異動

◦ 転職（昭和62年3月1日付）

◦ 山屋茂人（学芸員）

◦ 加藤正明（学芸員）

◦ 升任（昭和62年4月1日付・内示）

◦ 鈴木昭英（副参事兼館長）

◦ 転入（昭和62年4月1日付・内示）

◦ 今井鎮雄（庶務係長）市民課より

◦ 転出（昭和62年4月1日付・内示）

◦ 駒形義雄（庶務係長）収納課へ

昭和 61 年度月別入館者数

月 別	個 人		團 体		資料照会		計		
	大 人	子 供	團体数	大 人	團体数	子 供			
61. 4	378	417	3	61	16	1.407	48	3	2,314
5	429	225	7	217	47	5,097	65	—	6,033
6	439	278	4	61	2	181	54	—	1,013
7	452	401	10	286	1	59	36	7	1,241
8	846	867	7	177	10	2,67	46	26	2,229
9	488	320	6	175	1	100	48	2	1,133
10	818	682	8	117	5	3,21	143	1	2,082
11	624	405	8	171	1	16	53	2	1,271
12	210	103	1	7	—	—	13	1	334
62. 1	152	86	—	—	—	—	7	—	245
2	291	103	—	—	2	45	23	—	462
3	546	392	1	.56	—	—	14	—	1,008
計	5,673	4,279	55	1,328	85	7,493	550	42	19,365

< あ と が き >

「野鳥相を調べる会」は、野鳥に親しむことを目的に、誰でも参加できるかたちで行われています。毎月 1 回、同じ場所で行うことによって、ただ 1 回きりの観察会では知ることのできない、いろいろなことを経験します。4 月にはまだ冬鳥のツグミやカシラダカが残っていること、しかし 5 月になると夏鳥のホトトギスやカッコウに入れ変ること、やがて 10 月になると、それらの夏鳥が去り、また冬鳥が姿を見せることなど、私たちは野鳥を通して四季の移り変りを知ることができます。

そして、観察された野鳥は、しっかりと記録しながら、長岡の野鳥相を明らかにして行こうと思っています。これからも多くの方々の参加をお待ちしております。

(渡辺 央)

NKH (長岡市立科学博物館報) No. 5 1

昭和 62 年 3 月 31 日発行

編集・発行 長岡市立科学博物館 (長岡市柳原町 2 番地 1)
印 刷 所 あかつき 印刷 (長岡市新産 4 丁目 4 番 7)